



がんばってます Vol.52

血液内科



血液内科部長

おう いえくに
翁 家 国 医師

日々頑張っている仲間たちの姿を通して友愛記念病院を紹介するこのコーナー。

第52回の今回は、血液内科にスポットを当てました。

Q 血液内科とは、どういう病気を診る科ですか？

A 血液の病気を診る科で、血液の三大疾患といわれる急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫の患者さんが中心です。いずれも高齢者に多く、治療が難しい血液のがんです。最近は薬や治療法の開発がとても進んでおり、生存率も上がってきています。特に血液内科で最も多い悪性リンパ腫は、抗がん剤の治療で約6割の患者さんが完治するようになってきました。

血液内科の三大疾患

急性白血病

69歳までは骨髄移植を中心に、70歳以上では分子標的薬と抗がん剤の組み合わせで治療します。高齢者でも少ない副作用で、効果がみられるようになってきました。

悪性リンパ腫

人口10万人に対し、年間15～20人ほどが発症するというデータもあり、当科で最も多く扱う病気です。当院でも毎年20～30人の患者さんに対応しており、抗がん剤の治療で約6割の患者さんが完治しています。

多発性骨髄腫

ほとんどが高齢者に発生します。新薬の研究開発がめざましく、最近では5年生存率が5割を超えるようになってきました。高齢の方で、腰痛と同時に貧血や腎臓の働きに異常がある場合は、疑う必要があります。

Q 当院の血液内科の特徴は？

A 古河市内で、血液内科医が常勤している病院は当院だけです。加須、栗橋、筑西など近隣にも非常勤の医師を外部から招いて、外来で診察を行っているところがありますが、常勤の血液内科医がいる病院はありません。三大疾患の治療は、常勤の専門医がいないと院内で行うことができないので、古河市内の患者さんはもちろん、近隣の地域からも血液の疾患と診断された患者さんが、紹介により当院に集まることになります。結果、昨年度は延べ284人の患者さんが入院されました。

骨盤の骨(腸骨)から骨髄液や細胞を採って調べる「骨髄検査」。血液内科でしか行われない特殊な検査です。

